



平成23年度 ブラジル通信  
12月17日(土)~12月23日(金)  
No. 16  
発行者: 宮本 朋子

## パラナ連邦大学訪問

2009年度から開設された文学部現代外国語学科日本語コース担当のルイス・ガルデナル先生を訪問しました。このコースの募集人数は20人で、現在55人の学生が日本語を勉強しています。

もともとパラナ連邦大学には、36年前から日本語講座があり、その後、10年前からCELINで日本語を教えるようになったそうです。CELINとは、国が行っている外国語教室で、21ヶ国語を勉強できます。(通信14号で紹介したCELEMは、州政府の事業であり、CELINとは異なります。)17歳以上の人なら誰でも入学試験を受けることができ、授業料はR\$400(半年)で土曜日に開かれています。日本語講座は、初級1~4、中級1~4、上級1~4とあり、それぞれ2年ずつの全6年コースとなっています。しかし、途中でやめてしまう人が多く、最後まで修了する人は少ないといえます。また、日本語学校の先生の力量が低下傾向にあること、日本語教師の免許をもたずに教えている先生がいることなどから、3年前に文学部に日本語コースが新たにできたのです。

日本語コースでは、卒業後の進路によって修業年限は異なり、研究者をめざす学生は4年間、教師をめざす学生は4年半(教育学部の学習が含まれるため)となっており、日本語教師の免許を取得することができます。現在、教師をめざす学生は、文学部で日本語を学習し、CELINで教鞭をとり

日本語の魅力にとりつかれています



CELINで日本語を教えている田丸さんと文学部日本語コース担当のルイス先生

ながら授業の仕方や指導計画の立て方を勉強するなど、連携し合って日本語教育を行っています。来年度、日本語コース初の卒業生が誕生するということで、15年~20年日本語を教えているベテラン先生のために、日本語教師の免許が認定できる講座開設に向けても動いているそうです。若い人材とベテラン教師が協力し合って日本語教育を進めていくことで、今後のブラジルにおける日本語学校の在り方が大きく変わってくるように感じました。



パラナ連邦大学

## 日系人親子との面談

2年半前に帰国したという日系人親子と面談しました。現在、15歳で高校1年のジュリオ君(クリチバ生まれ)と13歳で中学1年のピアンカさん(日本生まれ)は、6年前に家族で日本に行きました。当時は、日本語が全く話せない状態だったそうで、慣れるのに少し時間がかかったそうです。しかし、両親がブラジルへの帰国を考えていたので、家庭ではポルトガル語を話し、読み書きも教えてくれたそうです。そのため、帰国後は、問題なく学校に適應できたといえます。現在は、日本で身につけた学習習慣と基礎学力、そろばんが役に立ち、成績優秀のため、奨学金で有名私立学校に通っています。(ブラジルの成績は、ほとんどが試験結果と宿題のみで決まるそうで、学習意欲や態度は含まれません。)自分の時間が十分にとれ、好きなことに打ち込めることのできるブラジルが大好きだと、嬉しそうに話してくれました。



日本語も大切にしていきたいです

## ABD：ブラジル出稼ぎ協会訪問

1997年にクリチバ市にて創設されたABD（ブラジル出稼ぎ協会）を訪問しました。ABDでは、出稼ぎ労働者のニーズに応えるために、企業家としての能力開発活動の奨励を目的としており、ブラジルでビジネスを開始するための教育・技術・管理支援を行っています。



ABDの活動に協力しているみなさんと

出稼ぎ開始当初は、お金を稼ぐことを目的として、一人で日本に渡り、1～3年ですぐ帰国していたため言葉も覚えなかったそうです。生活習慣が異なり、仕事に追われる毎日と言葉の通じない日本でうつ病になったり、帰国して家や車を買ってしまったため、出稼ぎを繰り返したりするというような問題があったようです。また、日系ブラジル人は、ブラジルでは日本人と呼ばれ、勤勉だと思われていますが、日本では外国人と呼ばれ、危険だと思われていたことも、精神的負担だったといえます。

そこで、現在は、事前に日本について学習するオリエンテーションを行い、日本語や文化を習うことをすすめたり、ビジネスプランや子どもの教育についても考えるよう話したりしています。その結果、家族で日本に渡り、6～8年かけて出稼ぎする人が増えてきました。今までに34万人以上の方が日本へ出稼ぎに行き、現在26万5千人が働いています。経済成長がすすむブラジルでは、年々出稼ぎに行く人も少なくなってきましたが、ブラジルで成功するためには、まだまだ日本への出稼ぎが必要だといえます。出稼ぎ家族が笑顔で暮らせるよう、事前事後サポートを大切にしていってほしいと思いました。

## パラナヴァイ市 太鼓5周年記念&マスタース発足会

パラナヴァイ市の文協に太鼓が結成してから5年が経ちました。2度の全伯優勝を収めている実力のある太鼓ですが、今回新たに大人向けのマスタースを発足することになり、一緒に参加してきました。第1回目の練習会ということで、太鼓関係者や子どもの親を対象に行われました。サンパウロから太鼓の先生を招いて、基本のリズムに合わせて楽しく太鼓に親しむことができ、笑いあふれる発足会になりました。子どもたちに負けぬよう、永く続けられることを願っています。



太鼓の難しさとお深さを体験しました



## ぶらっとブラジルク・イ・ス♪

ブラジルの町で、よくスクールバスをみかけます。そのバスには、右から左に反対に文字が書かれていました。それは、なぜでしょう？

- ①他の車と区別するため
- ②板金塗装業者のうっかりミス
- ③自動車に乗っている人がバックミラー越しに文字が読めるようにするため



名前が逆さま…なぜ？

答え：③（サイレンを鳴らし、一刻も早く現場に向かうために、消防車と救急車に配慮されていました。しかし、パトカーの文字はそのままで、スクールバスは反対でした。パトカーよりスクールバスの方が優先されているように感じました。まだまだ謎の多い国、ブラジルです。）